

中山間地でのほ場整備を目指して



浦委員長（左）と金野事務局長

気仙沼市の^{もとよしちょうおもてやまだ}本吉町表山田・^{さんだんだ}三段田地区では、現在、ほ場整備を見据えた取組が進んでいる。当地区は中山間地に位置し、ほ場の不整形や用排水の不備、分散など多くの問題を抱えていた。両地区の用水組合が協力して地域農業を維持してきたが、両用水組合を母体とするほ場整備事業推進委員会を設立。組合員による勉強会や先進地視察などを経て、来年度から、整備の方向性を決める受託調査を実施する。

同委員会の^{としじろう}三浦敏治郎委員長（67）は「国の施策は農業の大規模化を促すものが多い。法人化も先進技術導入も面整備されていればこそその施策。中山間地こそ、ほ場整備が必要」と語る。

また、市農業委員で同委員会の事務局長を務める^{こんのまさよし}金野政義さん（64）は「これまで、農地は個人の財産という意識が根強く、地域で守るという意識の醸成が難しかった。農地を個人の力で守ることがいよいよ困難になってきた今、担い手の世代交代も追い風になっている」と話す。



勉強会の様子（令和4年11月20日）